

農政研究センター編

ソ連の農業・食料問題

御茶の水書房刊

執筆 者 紹 介 (執筆順)

柴 山 露 夫	ソ連研究者
芦 澤 正 和	農林省野菜試験場育種第四研究室長
内 嶋 善兵衛	農業技術研究所物理統計部物理第一研究室長
的 場 徳 造	日本大学経済学部教授
中 山 弘 正	明治学院大学経済学部教授
金 田 辰 夫	農林省農林水産技術会議総務課長
有 馬 達 郎	農業総合研究所ソ連研究室長
原 田 竹 治	農業技術研究所囑託
丸 毛 忍	亜細亜大学経済学部教授
大 内 力	東京大学経済学部教授
小 川 和 男	ソ連・東欧貿易会調査部長
阪 本 楠 彦	東京大学農学部教授

ソ連の農業・食料問題

1977年8月25日 第1版第1刷発行

編集者 © 農政研究センター

発行者 百 瀬 けさも

発行所 株式
 会社 御茶の水書房

〒101東京都千代田区神田神保町2-36

電話03(265)5746(代)振替東京8-14774

Printed in Japan

3061-21079-0736

印刷・厚徳社／製本・常川製本

まえがき

ソ連の農業体制と食料問題——これを簡単にソ連の農業・食料問題ということもできよう——は、われわれの深い関心の的である。アメリカの農業体制も日本と異なるが、ソ連の農業体制は、それより以上に日本と異なる。前者の相違は量的なものだが、後者の相違は質的なものであるともいえる。その異なるところが、われわれの関心の的であったし、現にまたそうである。ところが、近年では、ソ連の農業体制もさることながら、ソ連の食料問題がわれわれの強い関心の的となってきた。ソ連が時として、巨大な穀物輸入国として現われることになったからである。これが一つの契機となって世界の食料需給事情が急変することにもなった。世界一の穀物輸入国たる日本のわれわれがこれに関心をもたざるをえないのは当然である。

いうまでもなく、ソ連の農業体制は、東欧その他の社会主義諸国のそれに影響を及ぼしたし、また社会主義諸国でなくとも社会主義的志向の人々の思考にも影響を及ぼした。それは、社会主義的志向をもたない人々のなかでも、農業体制に関心のある人々の検討の対象となった。それはときには体制の優劣論にもなった。いまそれは、ソ連の食料問題とも絡み合って論じられることも多くなっている。いわば、ソ連の農業体制と食料問題とは一体的に論じられることがあるのである。しかし、ソ連の食料問題を主としてその農業体制によって論ずることが果たして妥当かどうかは、大きな研究課題にちがいない。

このような若干の問題意識をもつて、わが農政研究センターでは一九七六年度の課題として、ソ連の農業・食料問題をとり上げた。研究課題としてとり上げたというよりも、ソ連の農業・食料問題に関する諸論文を一冊の本として刊行する企画を樹てた。その企画には主として丸毛忍教授に担当を願ったが、大内力教授の援助も得た。この企画に

基づいて、当初から一巻の書物として刊行する予定であったが、執筆の諸先生のなかには病氣などの事故もあって、原稿の完成の時期が揃わないことになった。それで、とりあえず、農政研究センターの農業構造問題研究会の機関誌に逐次登載することにした。その登載は、季刊『農業構造問題研究』一九七六年第三号から一九七七年第二号にまでに及んでいる。

いまこれらを一本にまとめるに当たって、執筆の諸先生にそれぞれ校閲を願って、いわば完璧を期することにした。なお、ソ連の農業・食料に関する諸課題について、こうして得た諸先生による一二章にわたる論文のほか、この諸先生のうちの一部の方々と他の方々の参加のもとに開かれた討論をもって、しめくくりとした。さらに農林省国際企画課の好意と論文の執筆者でもある金田辰夫先生の助力によって、末尾に資料として、参考となるべき統計資料を添えた。現在のところ、ソ連の農業・食料問題について、最も新しく、最も網羅的な書物となったにちがいないし、実際であると同時に理論的にも水準の高いものになっていると信ずる。この書物のもう一つの特徴は、ソ連の農業・食料問題に関する経済学的考察のほか、技術学的考察も加えられていることである。そして、執筆者には経済学者のほか農学者、行政官を含む。ここに、これらの諸先生及び「現代ソ連農業をめぐる諸問題」の討議に参加されたその他の諸先生に深謝の意を表したい。

一九七七年七月

農政研究センター会長 小 倉 武 一

目 次

まえがき

第一章 一九七五年における穀作等への凶作とその影響……………柴山露夫…三

一 穀物生産……………三

一 一九七五年における穀物生産実績（三）

二 穀物不作の原因（五）

三 穀物不作の地域別実態（六）

二 飼料作物の生産……………三

三 砂糖用てんさい……………五

四 穀物等の不作の影響……………七

一 穀物需給（二七）

二 畜産への影響（二八）

第二章 農業生産の技術上の問題と試験研究体制……………芦澤正和…三

まえがき（三）

一 農業生産上の問題点と解決方針……………三六

一 生産の不安定要因 (三六)	
二 方策の技術的課題 (三八)	
二 試験研究体制	三三

一 科学アカデミー (三三)	
二 農業科学アカデミー (三三)	
三 大学・技術専門学校等 (三三)	
四 研究所および試験場 (三六)	
三 生産との接点にある機関	三七

第三章 ソ連農業の当面する諸問題	柴山露夫
------------------	------

一 気象変動の影響をうけやすい不安定な生産体質	四一
一 生産変動の実態と自然条件のきびしさ (四二)	
二 早ばつと熱乾風についての諸対策 (四三)	
三 研究の拡大と深化 (四五)	
二 農業投資の増加と生産コストの上昇	五八
一 農業投資の増加 (五八)	
二 生産コストの上昇傾向 (六二)	
三 畜産物、野菜、砂糖用てんさい等の収益性の低さ	六四
四 畜産コンプレックスをめぐる諸問題	六五

一 畜産コンプレックスの建設の必要 (六五)	
二 畜産コンプレックスの現状 (六七)	
三 畜産コンプレックスの問題点 (六八)	
五 土地改良事業の現状と問題点	七三
六 その他の問題	七五
おわりに (七六)	

第四章 ソ連の気候 内嶋善兵衛 七

—— 農業気候を中心として ——

一 はしがき	七
二 一般気候条件	七六
一 太陽放射量 (全短波放射量) (七九)	
二 降水量 (八二)	
三 ソ連と北アメリカの気候立地 (八三)	
三 作物の気候要求度	八五
一 作物の温度要求度 (八六)	
二 作物の水分要求度 (八七)	
四 農業気候資源の分布	九〇
一 有効積算気温の分布 (九二)	

二	水熱係数の分布(九)	
三	耕土層の有効水分量(九)	
四	積雪と地温(九五)	
五	農業気象災害.....	六
一	旱ばつ(一〇〇)	
二	熱乾風(一〇一)	
三	砂嵐(一〇五)	
四	凍・寒害(一〇六)	
六	気候の変化.....	一〇
七	むすび.....	一四
第五章	コルホーズの発展.....	二七
一	はしがき.....	一七
一	コルホーズの数、参加農家数(一二七)	
二	コルホーズのウエイトの変化(一二八)	
三	コルホーズの規模(一二九)	
二	コルホーズの質的転換、その内容.....	一三
一	コルホーズの型態と発展(一二二)	
二	コルホーズと農協(一二四)	

三 加入と脱退 (二五)

四 コルホーズの構造 (二五)

三 コルホーズとそれをめぐる条件 二七

一 コルホーズの土地と拡大 (二七)

二 コルホーズ員 (二八)

三 コルホーズの協同事業 (二九)

四 コルホーズとソフホーズ (二九)

四 結 び 三二

一 コルホーズ員は満足か (三二)

二 コルホーズの将来 (三三)

三 コルホーズとソフホーズの生産力 (三三)

第六章 一九七〇年代のソ連農業と政策 中山弘正 三三

一 党大会における農業 三五

二 政策の展開とその見通し (1) 三九

三 政策の展開とその見通し (2) 四六

四 問 題 点 五三

第七章 第一〇次五カ年計画と畜産 金田辰夫 五七

一 新五カ年計画の特徴	一七
-------------	----

一 生産目標	(一五六)
二 生産対策	(一六二)

二 新五カ年計画における畜産	一六三
----------------	-----

一 畜産物拡大の伸び悩み	(一六三)
二 畜産低成長の解釈	(一六五)
三 畜産物不足への対応	(一七二)

三 今次計画における飼料用穀物需要	一七五
-------------------	-----

一 畜産物生産の飼料消費	(一七五)
二 穀物需給と飼料向可能性	(一七八)
三 抑制的飼料供給の背景	(一八二)

第八章 野菜の技術的問題	一八三
--------------	-----

一 野菜の技術的課題	一八三
------------	-----

一 成分含量の高い野菜の生産	(一八四)
二 野菜の貯蔵性の向上	(一八四)
三 野菜の早期生産	(一八五)

二 施設園芸の拡大と課題	一八八
--------------	-----

一 制限因子と地帯区分	(一九二)
-------------	-------

- 二 施設園芸の規模・組み合わせ (一九〇)
- 三 施設の種類・形式 (一九二)
- 四 施設内の作目 (一九三)
- 五 施設の加温 (一九四)
- 六 施設内の培地と施肥 (一九五)
- 七 施設内の補光 (一九七)
- 八 その他 (一九七)

三 むすび……………一九八

- 一 自留地について (一九〇)
- 二 生産から消費への過程 (一九六)

第九章 戦後ソ連の農政……………有馬達郎……………二〇二

——生産力の問題を中心として——

はじめに (二〇二)

一 ソ連農業の自然条件……………二〇二

二 フルシチョフ農政の展開……………二〇三

- 一 処女地・休耕地の開拓 (二〇四)
- 二 作付構成の改造 (二〇六)
- 三 農業生産の地域性の変化 (二〇八)
- 四 安上がり増産政策の帰結 (二一〇)

三	ブレジネフ農政の展開.....	二三
---	-----------------	----

一	農業投資の動向(二三)
---	-------------

二	農業生産の動向(二七)
---	-------------

四	おわりに.....	三二
---	-----------	----

第二〇章	ソ連の土壤と農業.....	原田竹治	三五
------	---------------	------	----

はじめに(三五)

一	北極地ツンドラ農業土壤帯.....	三九
---	-------------------	----

二	北部タイガ農業土壤帯.....	三〇
---	-----------------	----

三	中部タイガ農業土壤帯.....	三三
---	-----------------	----

四	南部タイガ農業土壤帯.....	三四
---	-----------------	----

五	褐色森林土農業土壤帯.....	三七
---	-----------------	----

六	森林ステップ農業土壤帯.....	三八
---	------------------	----

七	ステップ農業土壤帯.....	三四一
---	----------------	-----

八	乾燥ステップ農業土壤帯.....	三四四
---	------------------	-----

九	温帯気候区の半砂漠農業土壤帯.....	三四六
---	---------------------	-----

一〇	温帯気候区の砂漠農業土壤帯.....	三四八
----	--------------------	-----

一一 温帯氣候区の前山・半砂漠農業土壤帯……………二四九

一二 亜熱帯氣候区の砂漠農業土壤帯……………二五〇

一三 亜熱帯氣候区の前山・半砂漠農業土壤帯……………二五〇

一四 亜熱帯氣候区の灌木ステップ・乾性林農業土壤帯……………二五二

一五 亜熱帯氣候区の湿性林農業土壤帯……………二五三

おわりに (二五三)

第二章 二つの時代と二つの農業開発計画……………丸毛 忍……………二五七

——ロシア共和国非黒土地帯とカザフ共和国処女地地方とを比較しつつ——

一 ブレジネフ時代とフルシチョフ時代との農業開発計画の特徴……………二五七

一 カザフ共和国の処女地地方 (二五九)

二 ロシア共和国非黒土地帯 (二六〇)

二 非黒土地帯の農業開発計画……………二六四

一 非黒土地帯の範圍 (二六四)

二 ロシア共和国非黒土地帯農業の現状と地位 (二六七)

三 農業開発五カ年計画のアウトライン (二七三)

四 いくつかの問題 (二七七)

三 処女地地方の農業開発計画……………二八三

一 正しかった西欧学者の予言 (二八三)

二 処女地地方とカナダ大平原地方 (二九六)

第二章 ソ連農産物・食品貿易の構造……………金田辰夫…二九三

一 食品貿易の動向……………二九三

一 量的増大 (二九三)

二 輸出品目の多様化・高級化 (二九六)

三 輸出入の変動 (二九七)

四 慢性的輸入超過 (三〇一)

五 食品貿易の比重 (三〇四)

二 農産物貿易の特質と政策……………三〇六

一 ソ連の買い付け活動の特殊性 (三〇六)

二 農産物貿易政策 (三〇七)

三 当面の見通し (三一二)

〔討論〕「現代ソ連農業をめぐる諸問題」……………三一九

有馬達郎 内嶋善兵衛 大内力 小川和男 小倉武一 金田辰夫

阪本楠彦 中山弘正 原田竹治 的場徳造 丸毛忍 (五十音順)

一 問題の提起 (三二)

二 ソ連の畜産 (三二四)

三 ソ連の農業体制と自然条件 (三四〇)

- 四 ソ連の食料問題 (三五)
- 五 ソ連の経済構造 (三六)

〔資料〕 統計表

三七

- 表1 人口、都市人口、農村人口 (三七)
- 表2 各種穀物の生産量、土地生産性、收穫面積 (三七)
- 表3 非穀物の生産量、土地生産性、收穫面積 (三七)
- 表4 家畜飼養頭羽数 (三七)
- 表5 経営形態別家畜保有頭数 (三七)
- 表6 食肉生産 (屠体重量) (三六)
- 表7 穀物需給 (推定) (三六)
- 表8 国民一人当たり年間食糧供給の国際比較 (三八)

ソ連の農業・食料問題